

土壌中におけるジノテフランの挙動と後作物への移行解明

【背景と目的】

ジノテフランは、広い殺虫スペクトラムと浸透移行性を持つ農薬で、基幹防除剤として活用されている。一方、加水分解安定性が高く、土壌残留性があること、また、水に溶けやすいため後作物への残留が懸念されているが、その程度や環境との関係はほとんど検討されていない。そこで、土壌中や後作物への残留の有無や程度、地温や土壌水分等環境との関係を確認し、ジノテフランを成分とする農薬の適正使用を推進する。

【研究概要】

(1) 環境と挙動との関係解明

①室内試験

温度および異なる土壌種における挙動の確認

②圃場試験

土壌施用剤を施用した葉菜類連作圃場における土壌残留濃度と環境（気温・地温・土壌水分等）との関係解明

(2) 後作物への移行の有無および程度の確認

2品目について時期や栽培条件を変え検討する。